基礎演習（株式会社と証券投資）　　箕輪 徳二

授業概要

本演習では資本主義経済を支えている主たる企業形態である株式会社の経済的仕組みの理解から勉強する。株式会社は、株式証券を発行して社会的に資本を調達するところに経済的な特徴を有している。株式会社制度は、証券市場と一体で成立している。株式証券は金融商品として証券市場で売買（株価形成）され、不特定多数の投資家（株主）が参加しており、会社経営者は株主に一定期間の会社経営活動の成果等の投資情報として有用な財務報告の公表を求められている。本演習では、株式会社制度をベースに①有価証券と投資、②銀行市場（預金・貸出・決済）と証券市場（株価形成、形成の特徴）、③日本の 1965 年以降の証券市場の歴史、制度、を学び、日本経済・企業経営の動向分析ができることを目標とする。併せて本演習で、現代の政治経済・経営についてのトピックスを新聞記事、雑誌等から取り上げ討論する。

授業計画

第 1 回	基礎演習の目指すもの	第 16 回	戦後の経済成長時代の個人金融投資
第 2 回	株式会社制度と他の会社形態	第 17 回	1965 年証券恐慌と株価
第 3 回	株式会社制度の経済的仕組み	第 18 回	1975 年代の低経済成長時代の株価
第 4 回	株式会社と株式発行（資本金の形成）	第 19 回	81 年のニクソン・ショックと円切上げ
第 5 回	株式上場（株式証券売買）の意味	第 20 回	1985 年プラザ合意とバブル経済
第 6 回	銀行市場（預金・貸出・決済）の役割	第 21 回	為替変動はなぜ起こるか
第 7 回	証券市場（株価形成）の役割	第 22 回	1990 年バブル経済の崩壊（株価下落）
第 8 回	日本の家計資産の変化	第 23 回	1991 年から地価下落
第 9 回	金融資産（株式、債券）とは何か	第 24 回	株式投資指標を考える
第 10 回	生活上のリスクを考える	第 25 回	株式会社の業績の読み方（B/Sから）
第 11 回	資金調達と金融資産運用のリスク	第 26 回	株式会社の業績の読み方（P/L から）
第 12 回	100 年人生と資産運用	第 27 回	株式会社の業績の読み方（CF/S から）
第 13 回	投資を考える	第 28 回	株式・社債の価値を市場から評価
第 14 回	分散投資とリスク管理	第 29 回	債券投資の注意点
第 15 回	金融市場を見る目	第 30 回	債券投資と格付け

到達目標

株式会社制度と株式の金融市場の仕組みを理解し、日本の金融市場の金融資産投資の特徴を理解し、会社の投資分析ができるようにする。

履修上の注意

初級簿記を履修しておくことが望ましい。積極的に討論に参加する。

予習復習

予習は、テキストをよく読み、理解できなところのリストを作り質問すること。復習は、討論後の問題点をまとめ、提出すること。

評価方法

報告（30%）、討論（30%）、レポート（40%）を総合評価する。

テキスト

二上季代司・代田　純　編著　『証券市場論』　有斐閣ブックスを使用の予定である。

基礎演習　　相沢 幸悦

授業概要

アメリカの中央銀行ＦＲＢや欧州中央銀行（ＥＣＢ）が大規模な金融緩和を終了しつつありましたが、米中貿易戦争などで景気後退の兆しが見られ、金融緩和に戻っています。日本銀行は、異次元の金融緩和を続けています。おかげで、円安基調に転換し、長かったデフレ不況が終息しつつあるといわれています。しかし、その弊害も深刻です。

２０１６年には、アメリカでトランプ氏が大統領選挙で勝利しました。トランプ政権は、アメリカファーストと保護主義をかかげていますが、自国中心主義を世界中から批判されています。

世界経済が激動するなかで、日本でおこなわれてきたアベノミクスといわれるものがはたして有効なのか、ということについて議論します。

本演習では、こうした世界と日本経済の実態、金融・証券市場の仕組みを理解できるように指導します。

授業計画

第１回	演習の概要	第 16 回	戦前の日本経済の特徴
第２回	戦後の冷戦体制	第 17 回	日本の高度経済成長
第３回	冷戦体制の崩壊	第 18 回	高度経済成長の終焉
第４回	グローバリゼーションの進展	第 19 回	資産バブル経済の生成
第５回	なぜトランプ氏が当選したか	第 20 回	資産バブル経済の崩壊
第６回	トランプ政権による混乱	第 21 回	平成大不況への突入
第７回	トランプ政権の何が問題か	第 22 回	金融ビックバンとは
第８回	トランプ政権の行方	第 23 回	証券ビッグバン
第９回	ヨーロッパ経済の歴史と現状	第 24 回	日本銀行の異次元緩和
第 10 回	ヨーロッパでの極右の台頭	第 25 回	日本銀行のマイナス金利政策
第 11 回	アメリカ中央銀行の金融政策	第 26 回	アベノミクスの第一ステージ
第 12 回	欧州中央銀行の金融政策	第 27 回	アベノミクスの第二ステージ
第 13 回	対テロ戦争とは	第 28 回	日本経済のあり方
第 14 回	新たな冷戦体制	第 29 回	日本の金融・証券市場のあり方
第 15 回	保護主義が強まるか	第 30 回	演習のまとめ

到達目標

・今の世界が、いったいどうなっているか、日本は、世界のなかでどのような位置にあるか、日本の経済はどのような方向に進むのがいいか、さらに、金融・証券市場とはなにか、ということを理解してもらうことが到達目標です。

履修上の注意

・世界と日本の経済、金融・証券市場の動きを取り上げますので、日々の新聞を読んでおいてください。
銀行や証券会社や保険会社など金融機関への就職を考えている学生は大歓迎です。

予習復習

・取り上げるテーマについて事前に予習し、終わったら必ず復習をしてください。

評価方法

・演習での発表(50%)、発言(30%)や取り組み状況(20%)などによって評価します。

テキスト

・テキストはとくに使用しません。適宜、新聞記事や資料を配布します。

基礎演習

李 相和

授業概要

この演習は、会計学の基礎を学習することを目的としている。具体的な学習内容は、複式簿記の基本原理、企業会計基準の考え方や用語解説などである。演習の進め方は、基本的には専門書の輪読する方法をとるが、新聞や雑誌などを通じて会計の基礎学力を強化も行う。秋期の演習は、専門演習に備え、レジュメの書き方や発表の仕方の取得も合わせて進める。

授業計画

第１回	会計学の意義	第 16 回	純資産の測定と認識１
第２回	複式簿記の原理１	第 17 回	純資産の測定と認識２
第３回	複式簿記の原理２	第 18 回	財務諸表の作成と解説１
第４回	財務諸表の読み方１	第 19 回	財務諸表の作成と解説２
第５回	財務諸表の読み方２	第 20 回	財務諸表の作成と解説３
第６回	資産の測定と認識１	第 21 回	レジュメ作成と発表の仕方
第７回	資産の測定と認識２	第 22 回	各自のテーマの報告と討論１
第８回	資産の測定と認識３	第 23 回	各自のテーマの報告と討論２
第９回	負債の測定と認識１	第 24 回	各自のテーマの報告と討論３
第 10 回	負債の測定と認識２	第 25 回	各自のテーマの報告と討論４
第 11 回	収益の測定と認識１	第 26 回	各自のテーマの報告と討論５
第 12 回	収益の測定と認識２	第 27 回	各自のテーマの報告と討論６
第 13 回	費用の測定と認識１	第 28 回	各自のテーマの報告と討論７
第 14 回	費用の測定と認識２	第 29 回	各自のテーマの報告と討論８
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

到達目標

・簿記知識は日商簿記３級以上の水準に達すること。
・発表レジメの作成及び発表能力の向上

履修上の注意

・毎回必ず出席してほしい。
・演習は参加型授業なので、積極的に、発言、議論してほしい。

予習復習

毎回の学習テーマについて予習及び復習をしてほしい。

評価方法

講義時の積極性やレジュメ・発表のでき具合等を考慮して、総合的に評価する。

テキスト

・桜井久勝『会計学入門』日本経済新聞社
・必要に応じて、プリントなどを配布する。

基礎演習　　一戸 真子

授業概要

宇宙開発が進み、地球レベルではなく、宇宙レベルでの議論が本格的に展開されるようになりつつある中で、地球レベルで物事を考えることは標準的なこととなってきました。本演習では、様々な出来事が、世界共通の課題であることも少なくないことを理解し、各ビジネスの展開もグローバルに考えることが今以上に必要になってきていることに対する理解を深め、世界の中の日本としての視点を醸成することができるよう、課題解決能力の向上やコミュニケーション能力の向上を目指します。

授業計画

第１回	宇宙と地球の関係	第 16 回	社会保障
第２回	生態系	第 17 回	高齢化
第３回	動物と植物	第 18 回	少子化
第４回	土壌と水・海洋	第 19 回	AI
第５回	気候変動	第 20 回	ソーシャルメディア
第６回	生物多様性	第 21 回	インフラ整備
第７回	エネルギー問題	第 22 回	住宅
第８回	人口問題	第 23 回	都市とへき地
第９回	貧困問題	第 24 回	ジェンダー
第 10 回	食料不足・飢餓	第 25 回	家族の在り方
第 11 回	平均寿命・健康寿命	第 26 回	コミュニティ
第 12 回	公衆衛生	第 27 回	安心と安全
第 13 回	感染症	第 28 回	平和と公正
第 14 回	医療・介護・福祉	第 29 回	持続可能な開発目標（SDGs）
第 15 回	労働	第 30 回	まとめ

到達目標

- 書く能力、コミュニケーション能力、論理的思考、プレゼンテーション能力が習得できる。
- 世界地図で物事を考えることができる。
- 世界の中の日本として考えることができる。
- 地球全体とビジネスとの関係について理解を深めることができる。

履修上の注意

積極的な学生を歓迎します。

予習復習

やや専門的用語が多いので、事前学習および各単元後の復習の習慣を身につけるようにしてください。

評価方法

試験（最終レポート含む）60%、小レポート及びプレゼンテーション 40%

テキスト

成美堂出版編集部『今がわかる時代がわかる世界地図』最新版

基礎演習　　伊藤 孝

授業概要

春期には，経営学の基礎あるいは入門を学び，秋期には，企業活動の国際化，国際経営の基礎を学びます。
① 食料品，衣類など我々の生活に必要な物的な財貨，各種の便益（サービス）などを生み出し，これを商品として消費者などに提供することが経済活動であり，これを担っているのが企業です。経営学は企業について学ぶ学問です。春期には，まず経営学とは何か，そのごく基本的な部分を学習します。
② 日本，アメリカなど主要国に所在する大企業の多くは，今日，本国のみならず諸外国でも活発に生産，販売などの活動を行っています。世界各国で活動をおこなう企業は，世界企業，多国籍企業などと呼ばれています。秋期には，企業の活動の国際化，世界企業による国際経営について，基礎から学びます。

授業計画

第 1 回	春期のゼミの進め方―経営学を学ぶ	第 16 回	秋期のゼミの進め方ー国際経営を学ぶ
第 2 回	戦略とは何か（その1）―基礎	第 17 回	今日の国際経営環境について
第 3 回	戦略とは何か（その2）―応用	第 18 回	多国籍企業の経営とは
第 4 回	戦略とは何か（その3）―発展	第 19 回	国際経営戦略
第 5 回	差別化とは何か	第 20 回	国際マーケティング
第 6 回	企業経営と差別化戦略	第 21 回	海外生産（その1）―日本型生産のグルーバル展開
第 7 回	現代企業経営と差別化戦略の高度化	第 22 回	海外生産（その2）―日本型生産の限界と課題
第 8 回	ビジネス・システムとは何か	第 23 回	技術移転と海外研究開発
第 9 回	現代企業とビジネス・システム	第 24 回	国際経営マネジメント（その1）―国際経営組織
第 10 回	ビジネスシ・システムの高度化	第 25 回	国際経営マネジメント（その2）―現地人材の活用
第 11 回	事業の多角化とは何か	第 26 回	北米・欧州のなかの日本企業
第 12 回	現代企業と事業の多角化	第 27 回	アジアのなかの日本企業
第 13 回	企業構造の再編成	第 28 回	新興国市場と日本企業
第 14 回	企業経営の国際化	第 29 回	サービス企業の海外進出
第 15 回	現代企業の国際化戦略	第 30 回	演習全体のまとめ

到達目標

経営学および国際経営の基礎を学ぶことで，グローバル化をたどる現代企業について関心を持ち，現代企業の現状と諸問題について，ある程度自分で理解できるようになることを目標とします。

修上の注意

病気などの場合を除いて，毎回欠かさず出席してください。欠席の場合は，メールで事前に連絡してください（アドレスはのちに伝えます）。遅刻の場合は理由を説明してください。

予習・復習

以下のテキストを用いて学習・討論します。必ず予習してください。授業の後は，テキストをもう一度読み直し，復習してください。なお，テキストについては，変更することもあります（その場合は，早めに連絡・掲示します）。テキストの変更に伴い授業の進め方も変わることがあります。

評価方法

テキストの報告 70%，ゼミへの貢献（学習・討論への参加の積極性）30%で評価します。

テキスト

・教科書名：
春期：第 1 回の授業の際に，提示する。
秋期：吉原英樹『国際経営（第 4 版）』，有斐閣，2015 年刊

基礎演習　　薄井 和夫

授業概要

テーマ：マーケティングとスポーツ
この演習は、マーケティングの基礎知識を学び、それを基に、マーケティングの新しい分野であるスポーツマーケティングをどのように捉え、どう考えるべきかを学びます。マーケティングでは、常に新しい考え方が提起されて今日まで発展してきましたが、そうした新しさはしばしば曖昧さをも含んでいます。この演習では、じっくりと腰を落ち着けて、ひとつひとつの概念を正確に理解し、マーケティングとスポーツマーケティングの様々な発想や理念、考え方を学び、皆さんの将来に役に立つ知識の習得に心がけたいと思います。
なお、観るスポーツとするスポーツの各小項目は例示であり、皆さんの興味に従って可変的です。

授業計画

第 1 回	演習の概要	第 16 回	観るスポーツの諸問題（8）スタジアム
第 2 回	卒業論文の準備について	第 17 回	観るスポーツの諸問題（9）企業
第 3 回	情報メディアセンターの使い方	第 18 回	観るスポーツの諸問題（10）まとめ
第 4 回	総論（1）マーケティングとスポーツの概念	第 19 回	するスポーツの諸問題（1）スポーツをする機会の日本的特徴
第 5 回	総論（2）戦略的発想法とスポーツ	第 20 回	するスポーツの諸問題（2）学校体育
第 6 回	総論（3）４Ｐとスポーツ	第 21 回	するスポーツの諸問題（3）部活
第 7 回	総論（4）消費者中心主義とスポーツ	第 22 回	するスポーツの諸問題（4）楽しみ
第 8 回	総論（5）マーケティングの歴史概説	第 23 回	するスポーツの諸問題（5）自治体施設
第 9 回	観るスポーツの諸問題（1）マーケターとは誰か	第 24 回	するスポーツの諸問題（6）フィットネスクラブ
第 10 回	観るスポーツの諸問題（2）スポンサー	第 25 回	するスポーツの諸問題（7）中高年層
第 11 回	観るスポーツの諸問題（3）メディア	第 26 回	するスポーツの諸問題（8）散歩
第 12 回	観るスポーツの諸問題（4）アンブッシュ・マーケティング	第 27 回	するスポーツの諸問題（9）メディカル・フィットネス
第 13 回	観るスポーツの諸問題（5）消費者	第 28 回	するスポーツの諸問題（10）まとめ
第 14 回	観るスポーツの諸問題（6）経験価値、ブランド、ファン	第 29 回	スポーツマーケティングの研究テーマ設定
第 15 回	観るスポーツの諸問題（7）公的支援	第 30 回	演習のまとめ

到達目標

マーケティングとスポーツマーケティングの基本概念を理解し、自ら使えるようになること、また、スポーツマーケティングに関する日常生活の様々な出来事や報道などについて関心を持ち、自ら調べたり、考えたりすることができる態度を身につけることを到達目標としています。

履修上の注意

◎演習では、グーグルなどを使ってインターネットで調べてくるという課題を出します。
◎メールにレポートを添付して提出していただきます。メール提出のレポートは、原則、添削してお返しします。なお、スマホは使えるがメールは苦手という学生さんがいますが、各自、スマホだけでなく、パソコンのメールからファイルを添付してメールを送付できるようにしてください。
◎演習には必ず出席すること。無断欠席は厳禁。30 分以内の遅刻は認めますが、遅刻３回で欠席１回分にカウントされます。

予習・復習

事前にわたす資料などを演習前によく読み、演習終了後には復習してください。また、予習・復習のためにネットなどで調べることは必須です。

評価方法

演習への出席を前提とし、演習への討論など参加態度（25%）、演習で出された課題の遂行の状況（25%）、最終期末レポート（50%）によって評価します。

テキスト

テキストは使わず、適宜、資料を配り、またインターネットで調査したウェブサイトを利用します。
参考文献が必要な場合は、とりあえず、以下をご参照ください。
◎薄井和夫『現代のマーケティング戦略 ― はじめて学ぶマーケティング基礎篇 ― 』大月書店、2003 年
◎中澤眞・吉田政幸編『よくわかるスポーツマーケティング』ミネルヴァ書房、2017 年

基礎演習　　大江 清一

授業概要

本演習は、経済と経営は相互に不可分であるとの認識に基づき、「経営学を学び、日本経済を知る」を基本方針として運営されています。これは、経営学、経済学のいずれかに軸足を置きながら、両分野を学べる本学の特徴をゼミ活動において体現したものです。

基礎演習では、教養演習や 1 年次の講義を通して修得した経営学と日本経済の知識をさらに発展させることを目的としています。前期は日本経済の特質を財政、貿易、金融等について考察し、後期は経営学の知識を、基本文献に基づいて確固たるものにします。前期、後期の最終講義は演習のまとめを行います。

授業計画

第 1 回	ガイダンス ―目的、方法、評価等―	第 16 回	組織の構成
第 2 回	日本の財政(1)―財政学の基本概念と財政の役割―	第 17 回	組織の設計
第 3 回	日本の財政(2) ―財政の仕組み―	第 18 回	企業統治
第 4 回	日本の財政(3) ―財政の歴史―	第 19 回	資本の構造
第 5 回	日本の貿易(1) ―貿易論の基礎―	第 20 回	雇用の構造
第 6 回	日本の貿易(2) ―自由貿易原則と制度対応―	第 21 回	経営戦略の基礎
第 7 回	日本と国際金融(1) ―外国為替市場―	第 22 回	競争と差別化
第 8 回	日本と国際金融(2) ―国際通貨体制―	第 23 回	経営資源の配分
第 9 回	日本と国際金融(3) ―国際金融実務―	第 24 回	人材マネジメント
第 10 回	日本の農業 ―日本農業の特徴と農業政策―	第 25 回	インセンティブ
第 11 回	日本の地域経済(1) ―地域経済学の基礎―	第 26 回	計画と管理
第 12 回	日本の地域経済(2) ―地域経済の活性化―	第 27 回	経営理念
第 13 回	日本の環境問題 ―環境経済学の基礎―	第 28 回	リーダーシップ
第 14 回	日本の社会保障 ―社会保障制度の概要―	第 29 回	経営者の職能
第 15 回	演習のまとめ	第 30 回	演習のまとめ

到達目標

本演習では、教養演習や 1 年次の講義を通して修得した経済学･経営学の知識をさらに深めることを目的とします。経済学の基礎や日本経済の特質を踏まえて経営学を体系的に学び、専門演習に向けた確固たる基礎学力を身につけることが課題となります。

履修上の注意

演習は講義を中心に進め、テーマごとに議論する方式を採用します。履修者は積極的に議論に参加することが求められます。より実感をもってテーマを理解できるよう講師の実務経験を交えた講義を行います。

予習復習

前期、後期ともに復習中心とした知識修得を目指します。演習で修得した知識をさらに深めるためにも、経済、経営関連雑誌や新聞に注意深く目を通すことが求められます。

評価方法

前期末、後期末のテストあるいはレポートの結果を 70%、演習への参画度や取り組み姿勢を 30%の割合で評価します。

テキスト

テキストはレジメを使用します。参考文献は各講義で明示します。

基礎演習　　大塚 浩記

授業概要

3 年次の専門演習で企業の経済活動に関する情報について『有価証券報告書』などを使用した演習を予定しているため，その際にゼミ生の興味関心を整理し，選択肢となる企業数を広げることを目的とする。そこで，2 年次の基礎演習では業界の全体像を概観し，ゼミ生には何らかの課題についてレジュメを作成し，プレゼンを行う演習を予定している。また，就職活動に備えた準備段階では，自らが積極的に企業のことを知る姿勢が大切であるため，その姿勢が養われるように指導する。

なお，下記の授業計画は 2019 年度の内容と予定を参考までに示すものであり，2020 年度は受講生により業界や企業は変わることになる。

授業計画

第 1 回	業界分析の必要性と株式投資	第 16 回	夏季休業中の課題のプレゼン
第 2 回	日経未来投資クラブと選択企業の報告	第 17 回	①e-スポーツ（大会）
第 3 回	経済記事と株価の推移	第 18 回	②e-スポーツ（具体例と仕組み）
第 4 回	①ニコン　②シグマ光機	第 19 回	③e-スポーツ（アップル・アーケード）
第 5 回	③ｼｭｯﾋﾟﾝ　光学機器業界まとめ	第 20 回	ゼミ見学下調べ（トヨタ L&F）
第 6 回	①ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ　②ぴあ	第 21 回	①沿革・企業理念等（トヨタ L&F）
第 7 回	③ｴｲﾍﾞｯｸｽＨ　ｴﾝﾀｰﾃｲﾒﾝﾄ業界まとめ	第 22 回	②仕事内容（トヨタ L&F）
第 8 回	①ｸｯｸﾊﾟｯﾄﾞ　②地域新聞社	第 23 回	③沿革・企業理念（豊田自動織機）
第 9 回	③まんだらけ　情報提供業界まとめ	第 24 回	④業務内容（産業機器）（豊田自動織機）
第 10 回	日経未来投資クラブ（ワークシート①）	第 25 回	⑤見学後，レポート作成とプレゼン
第 11 回	①ﾃｲｸｱﾝﾄﾞｷﾞﾌﾞ･ﾆｰｽﾞ ②ﾜﾀﾍﾞｳｪﾃﾞｨﾝｸﾞ	第 26 回	春期の投資先と株価動向
第 12 回	③ﾂｶﾀﾞ･ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙＨ　ﾌﾞﾗｲﾀﾞﾙ業界まとめ	第 27 回	3 年次の活動について考える
第 13 回	①WOWOW②スカイパーフェクト TV	第 28 回	①ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟに行ってみたい企業①
第 14 回	③J-COM　有料放送業界まとめ	第 29 回	②ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟに行ってみたい企業②
第 15 回	夏季休業中の課題について	第 30 回	③ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟに行ってみたい企業③

また，回数や内容は目安であり，進度により適宜変更・調整する。

到達目標

・質疑応答にこたえられる責任をもったレジュメ・レポートの作成と報告ができる。
・調べた業界の全体像を知るとともに，就職先として希望する業界や企業を発見する。

履修上の注意

・登録前に必ず面談し，担当者の意図を理解した上で選択すること。
・履修指導を含め，通常の演習時間以外の活動（例えば，指定するエクステンションセンター主催の講座の受講）などを積極的に指示する。

予習復習

・予習：報告レジュメの作成。
・復習：課題レポートの作成。

評価方法

・演習時における積極的な参加姿勢（レジュメ作成やプレゼンなど）といった平常点60%と，提出課題（または定期試験）40%を目安に評価する。

テキスト

・『会社四季報　業界地図』　最新版，東洋経済新報社。

基礎演習　　奥山 忠信

授業概要

基礎演習を卒論作成のために必要な学習方法を学ぶ準備段階として考える。具体的には、
①専門的な本を読んで、日本経済の抱えている問題について、学習する。
②自分で問題を発見し、調べ、結論を導く方法を習得する。

授業計画

第 1 回	授業のガイダンス	第 16 回	研究テーマの選定・資料の検索
第 2 回	テキストの輪読と感想文の作成	第 17 回	研究テーマの選定・資料の検索
第 3 回	テキストの輪読と感想文の作成	第 18 回	研究テーマの決定
第 4 回	各自テキストに関する報告と討論	第 19 回	研究テーマについての資料の報告
第 5 回	各自テキストに関する報告と討論	第 20 回	研究テーマについての資料の報告
第 6 回	各自テキストに関する報告と討論	第 21 回	研究テーマについての資料の報告
第 7 回	各自テキストに関する報告と討論	第 22 回	研究テーマについての資料の報告
第 8 回	各自テキストに関する報告と討論	第 23 回	研究テーマについての資料の報告
第 9 回	各自テキストに関する報告と討論	第 24 回	研究テーマについての資料の報告
第 10 回	各自テキストに関する報告と討論	第 25 回	研究テーマについての資料の報告
第 11 回	各自テキストに関する報告と討論	第 26 回	研究報告
第 12 回	各自テキストに関する報告と討論	第 27 回	研究報告
第 13 回	各自テキストに関する報告と討論	第 28 回	研究報告
第 14 回	各自テキストに関する報告と討論	第 29 回	研究報告
第 15 回	各自テキストに関する報告と討論	第 30 回	研究報告

到達目標

研究報告論文の作成の仕方を習得すること。

履修上の注意

指示に従って調査、研究を行うこと。

予習・復習

報告の準備を必ずすること。

評価方法

ゼミ中の発言と報告内容によって評価する。

テキスト

授業中に指示する。

基礎演習　　加藤 秀雄

授業概要

日本経済の発展を支えている日本の企業は、厳しい生き残り競争を繰り広げている。時には、思いもかけない大企業が破綻するなど、規模が大きければ生き残れるという保証はどこにもない。そうした世界的な競争の激化の中で、日本企業は時代の変化に対応すべく、日々経営革新に取り組んでいる。それは、けっして大企業にとどまらず、多くの中小企業においても取り組まれ続けている。

本演習では、将来、皆さんの働く場として想定されている企業の実態を学ぶことを通じて、日本の経済社会のあるべき姿を見通す能力を身につけることを目的としている。

授業計画

第 1 回	演習の概要	第 16 回	後期演習の概要
第 2 回	企業とは何か	第 17 回	グローバル化と日本の大企業①
第 3 回	企業の役割は何か	第 18 回	グローバル化と日本の大企業②
第 4 回	企業で働くということは①	第 19 回	上記①②についての発表と討議
第 5 回	企業で働くということは②	第 20 回	グローバル化と中小企業①
第 6 回	上記①②についての討議	第 21 回	グローバル化と中小企業②
第 7 回	日本経済の中での日本企業の役割①	第 22 回	上記①②についての発表と討議
第 8 回	日本経済の中での日本企業の役割②	第 23 回	働く場としての日本企業への期待①
第 9 回	上記①②についての討議	第 24 回	働く場としての日本企業への期待②
第 10 回	日本の中小企業の役割とは何か①	第 25 回	上記①②についての発表と討議
第 11 回	日本の中小企業の役割とは何か②	第 26 回	日本企業のあるべき姿とは①
第 12 回	上記①②についての討議	第 27 回	日本企業のあるべき姿とは②
第 13 回	ゼミ生の企業に対する関心事の討議①	第 28 回	上記①②についての発表と討議
第 14 回	ゼミ生の企業に対する関心事の討議②	第 29 回	日本企業と中小企業の今後について①
第 15 回	前期のまとめ	第 30 回	日本企業と中小企業の今後について②

各テーマに沿った自分の考えを整理し発表すると共に、他の受講生の考えに耳を傾ける。なお、上記の内容については、ゼミ生の人数、関心事、さらには進行度合いによって、変更・調整することがある。

到達目標

・大学生として、自分で文献を読み、理解した内容を整理し、発表、議論できる能力を身につける。
・特定のテーマに関して、他人と自分の考えがどのように違うのかを理解する能力を身につける。

履修上の注意

私たちが生きている現代の経済社会では、解決しなければならない問題が山積している。なにが問題なのか、なぜ問題が解決できないのか、どうすればいいかの問題意識を持つことが、本演習を履修する上で重要である。

予習・復習

・日本企業、中小企業に関する新聞記事等に関心を持つこと。
・各テーマごとに、具体的にレポート作成を指示する。

評価方法

・授業参加の姿勢（50%）や、レポート作成、発表等（50%）を総合的に判断して評価する。

テキスト

・教科書名：テキストや参考文献については、必要に応じて演習中に指示する。
・著 者 名：
・出版社名：
・出 版 年：

基礎演習　　張 英莉

授業概要

「日本経済新聞」の連載『私の履歴書』を教材に、松下幸之助、本田宗一郎、石坂泰三、中内功などの経営者の経営思想（経営観）に触れ、その「仕事の極意」、「プロフェッショナル論」、そして「人生の流儀」を学び、考え、議論することを通して、有名企業の創業者たちの言葉、考え方に触発され、履修者諸君の自由な発想とチャレンジ精神を高め、前向きな気持ちになるヒントを見つけることが目的である。

授業計画

第１回	オリエンテーション（授業の内容、目標、進め方、評価方法などの説明）	第 16 回	春期の内容を振り返って、秋期の目標を設定する
第２回	世間の「常識」を覆した企業家たち（総論Ⅰ）	第 17 回	会社とは何か、なぜ働くのか（総論Ⅰ）
第３回	逆境を乗り越えた苦労人（総論Ⅱ）	第 18 回	必ず頭角を現す経営者の条件（総論Ⅱ）
第４回	大賀典雄（ソニー）	第 19 回	土光敏夫（石川島播磨重工業）
第５回	鈴木敏文（セブン&アイ･ホールディングス）	第 20 回	賀来龍三郎（キャノン）
第６回	本田宗一郎（ホンダ）	第 21 回	八尋俊邦（三井物産）
第７回	松下幸之助（パナソニック）	第 22 回	石坂泰三（東芝）
第８回	伊藤雅俊（イトーヨーカ堂）	第 23 回	大谷米太郎（大谷重工業）
第９回	市村清（リコー）	第 24 回	樋口廣太郎（アサヒビール）
第 10 回	立石一真（オムロン）	第 25 回	中内功（ダイエー）
第 11 回	宮崎輝（旭化成）	第 26 回	吉田忠雄（YKK）
第 12 回	安藤百福（日清食品）	第 27 回	補充教材：IT 業界の新世代経営者――ビル･ゲイツ（マイクロソフト）、スティーブ･ジョブズ（アップル）、ジェフ･ベゾス（アマゾン）、セルゲイ･ブリン（グーグル）、孫正義（ソフトバンク）、三木谷浩史（楽天）など
第 13 回	議論・発表：以上の経営者たちの共通点は何か、それぞれの特徴は何か。	第 28 回	同上、つづき
第 14 回	同上、つづき	第 29 回	議論：改めて考える――「会社とは何か、なぜ働くのか」
第 15 回	春期の内容のまとめ	第 30 回	秋期の内容のまとめ

到達目標

1、経営史の基礎知識を習得すること
2、自分の考えや意見を正しくはっきりと他人に伝える力を身につけること
3、著名な経営者・創業者たちの人生を振り返ることによって、自分の人生目標を考えること

履修上の注意

1、報告者は分担内容のほか、テキスト以外の内容や統計データの補充が望ましい。
2、授業中の居眠りやスマホいじりはマイナス評価になる。

予習・復習

報告者でなくても必ず予定の内容を通読してください。

評価方法

出席はもちろんのこと、授業参加の真剣さや積極性、発表準備の状況および報告内容、授業態度、期末試験を総合して評価する。

テキスト

・教科書名：
・著 者 名：
・出版社名：
・出 版 年：

基礎演習　　花崎 正晴

授業概要

この演習では、現実の経済の仕組み、経済学の基本そして様々な経済問題の分析の仕方を学びます。基本的には、ゼミ生全員が毎回指定された文献や資料を前もって読んできて、事前に決められた担当のゼミ生が報告資料を作成、配布したうえで発表し、その内容について全員で議論する形で、進めていきたいと思っています。したがって、演習に主体的に取り組む意欲のある学生を求めます。

授業計画

第 1 回	この演習で学ぶこと	第 16 回	景気動向を表す指標.
第 2 回	「失われた 20 年」について	第 17 回	会社の財務
第 3 回	GDP の算出方法	第 18 回	会社の価値
第 4 回	経済成長の源泉	第 19 回	失業と物価
第 5 回	政府の役割	第 20 回	統計学入門
第 6 回	銀行の役割	第 21 回	インフレとデフレ
第 7 回	中央銀行の機能	第 22 回	国際機関
第 8 回	株式市場の機能	第 23 回	バブル
第 9 回	貿易収支の意味	第 24 回	年金制度
第 10 回	経済学のマクロとミクロ	第 25 回	雇用問題
第 11 回	「見えざる手」とは何か	第 26 回	会社の仕組み
第 12 回	国際貿易の意味	第 27 回	コーポレート・ガバナンス
第 13 回	情報の経済学	第 28 回	ESG、SDGs
第 14 回	ゲーム理論とは何か	第 29 回	EU とブレグジット
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ
		第 31 回	課題レポートの提出

到達目標

経済の仕組みや経済学の基本的な考え方を理解したうえで、報告資料を適切に作成し、効果的なプレゼンテーションを実施できることを目指します。

履修上の注意

予習、復習をきちんとすることと、毎回出席することを求めます。

予習・復習

指定された文献や資料を事前に理解するとともに、各回のゼミ終了後に内容を復習することを求めます。

評価方法

ゼミでの発表や発言（50%）、課題レポート等（50%）に基づき、総合的に評価します。

テキスト

初級レベルのテキストを、初回に指示する予定です。

基礎演習　　広瀬 明

授業概要

経済には、なぜ変動があるのでしょうか。それは、政府の経済運営が間違ってしまった結果なのでしょうか。多分にその要因はあるかとは思います。しかしながら、もしそうなのだとすれば、どこがどのように間違ってしまったのか、それを修正するためにはどうすればよいのか、については、経済の仕組みを理解する必要があります。なぜ好景気と不景気は交互にやってくるのか。不景気を克服するためにはどのような施策が求められるのか。そして、そもそも「景気」とは何か。
本基礎演習では、こうした経済の仕組みを理解するために、さまざまな角度から経済というものを考えられるように指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 17 回	回帰分析の方法１
第 2 回	コンピューターの機能１	第 18 回	回帰分析の方法２
第 3 回	コンピューターの機能２	第 19 回	回帰分析の方法３
第 4 回	ＥＸＣＥＬの機能１	第 20 回	回帰分析の方法４
第 5 回	ＥＸＣＥＬの機能２	第 21 回	回帰分析の方法５
第 6 回	ＥＸＣＥＬの機能３	第 22 回	回帰分析によるモデル分析１
第 7 回	表の作成と計算１	第 23 回	回帰分析によるモデル分析２
第 8 回	表の作成と計算２	第 24 回	回帰分析によるモデル分析３
第 9 回	表の作成と計算３	第 25 回	回帰分析によるモデル分析４
第 10 回	表の作成と計算４	第 26 回	回帰分析によるモデル分析５
第 11 回	表の作成と計算５	第 27 回	回帰分析による予測１
第 12 回	適切なグラフの作成１	第 28 回	回帰分析による予測２
第 13 回	適切なグラフの作成２	第 29 回	回帰分析による予測３
第 14 回	適切なグラフの作成３	第 30 回	回帰分析による予測４
第 15 回	適切なグラフの作成４	第 31 回	まとめ（授業内容の確認）
第 16 回	中間テスト	第 32 回	期末テスト

到達目標

経営現象や経済現象を理解するためには、データを適切に分析し、的確に解釈することが必要である。本講義では、そのために必要とされるデータ処理ができるようになることが到達目標である。さらに、パソコンでデータ処理をすることによって、コンピューターが社会において果たしている役割についても、理解してもらいたい。

履修上の注意

「基礎」演習とはいえ、あるいは「基礎」演習ゆえ、今後の専門科目を学ぶ上で基礎的な思考法を取得するためには、欠席、遅刻などは許されない。目に余るようなら、単位は永久に与えられることはない。

予習・復習

毎回にわたって常に新しいデータを提示するので、取得したデータ分析の方法を適用して、予習と復習にあててもらいたい。毎回の講義の始まりに、課題について解説をする。

評価方法

毎回の参加状況、発表の準備状況、ならびに討議への参加状況などを踏まえて評価する。

テキスト

教科書については、できるだけ手に入りやすく、またできるだけ安価なものを考えている。したがって、基礎演習が開始された時点で、参考書を含めて指定することにする。

基礎演習　　文 智彦

授業概要

経営戦略を中心とした経営学領域の演習である。

経営・戦略などについて書かれた文献等を理解するための演習を行う。形式としては、分担にしたがって毎回担当者が発表し、全員で内容を吟味し議論するスタイルである。

これらを通じて、読解力・コミュニケーション能力・文章力など社会に出る前に身につけておくべき基礎能力の養成も図る。

授業計画

第１回	概要	第 16 回	グローバル経営ー三菱ケミカル
第２回	業績回復ーカルビー	第 17 回	プレゼンテーション④
第３回	業績回復ー星野リゾート	第 18 回	人材育成ーローソン
第４回	業績回復ー日本マクドナルド	第 19 回	人材育成ー資生堂
第５回	プレゼンテーション①	第 20 回	人材育成ー京都銀行
第６回	IT の活用ーサイバーエージェント	第 21 回	プレゼンテーション⑤
第７回	IT の活用ーネットイヤーグループ	第 22 回	モノづくりー日本電産
第８回	IT の活用ー松井証券	第 23 回	モノづくりー花王
第９回	プレゼンテーション②	第 24 回	モノづくりーテルモ
第 10 回	新市場開拓ーオイシックス	第 25 回	プレゼンテーション⑥
第 11 回	新市場開拓ーエイチ・アイ・エス	第 26 回	地方発企業ーサラダボウル
第 12 回	新市場開拓ージャパネットたかた	第 27 回	地方発企業ーカイハラ
第 13 回	プレゼンテーション③	第 28 回	地方発企業ー東北電子産業
第 14 回	グローバル経営ー武田薬品工業	第 29 回	地方発企業ー大垣共立銀行
第 15 回	グローバル経営ーユニ・チャーム	第 30 回	プレゼンテーション⑦

到達目標

・一定の文献読解力、文章力、コミュニケーション力を身につける。
・企業経営について関心を持ち、経営学領域・経営戦略分野で何を学ぶべきか理解する。

履修上の注意

・授業内で指定する文献を購入する必要がある。
・多くの文献を読みこなす。
・遅刻と欠席には厳しく対処する。

予習復習

予習には、レジュメの作成と文献の事前の精読を課す。
復習には、プレゼンテーション用資料の作成を課す。

評価方法

読解力・文章力・発言力の向上により評価する。

テキスト

授業内で指定する。

基礎演習　　吉田 雄司

授業概要

授業内容は中級レベルの工業簿記と商業簿記を学習します。「初級簿記」を充分に理解していることが前提です。春期は主に工業簿記の論点整理と問題練習を行います。内容は費目別、部門別、総合原価、標準原価、直接原価計算を学びます。また秋期は商業簿記を主に学習します。内容は株式会社会計、剰余金、本支店会計と連結会計などを主に問題形式で学びます。日商簿記検定試験の 11 月と２月に沿った授業進度で行います。学習目標は、日商簿記検定２級合格水準です。

授業計画

第１回	ガイダンスと小テスト実施	第 16 回	ガイダンスと小テスト実施
第２回	①材料費の計算	第 17 回	①銀行勘定調整表
第３回	②労務費の計算	第 18 回	②株式・公社債の会計処理
第４回	③材料費・労務費・経費の計算	第 19 回	③固定資産の買換え、圧縮記帳
第５回	④個別原価計算	第 20 回	④リース取引の会計処理
第６回	⑤部門別個別原価計算	第 21 回	⑤無形固定資産と研究開発費
第７回	⑥部門別と個別原価計算	第 22 回	⑥外貨換算会計
第８回	中間試験	第 23 回	中間試験
第９回	⑦単純総合原価計算	第 24 回	⑦株式発行、剰余金と配当金
第 10 回	⑧仕損費の会計処理	第 25 回	⑧決算手続き、費用収益の認識基準
第 11 回	⑨工程別、組別・等級別原価計算	第 26 回	⑨税効果会計
第 12 回	⑩標準原価計算	第 27 回	⑩本支店会計
第 13 回	⑪原価差異分析	第 28 回	⑪連結会計：資本連結
第 14 回	⑫直接原価計算	第 29 回	⑫連結会計：成果連結
第 15 回	⑬CVP 分析、短期利益計画	第 30 回	⑬製造業会計
	定期試験	秋期	定期試験

到達目標

・中級レベルの商業・工業簿記を習得すること。

履修上の注意

- 正課授業科目の「中級簿記」、「原価計算論Ⅰ」、「原価計算論Ⅱ」は必ず履修登録すること。
- エクステンションセンターの「日商簿記検定１・２級講座」を受講のこと。

予習復習

毎日、３時間は簿記の問題集を練習すること。

評価方法

・毎回の授業参加と中間（50%）・定期試験（50%）で総合的に採点する。
・授業態度不良者等は「不可」とする。

テキスト

TAC 株式会社(簿記検定講座) 編著『よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記 2 級工業簿記 Ver.8.0』TAC 出版
TAC 株式会社(簿記検定講座) 編著『よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記 2 級工業簿記 Ver.8.0』TAC 出版